

## 1996年6月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度では、北極海の負偏差とアリューシャン列島付近・カナダ東部・ヨーロッパの正偏差が顕著であった。高・低気圧の活動は太平洋東部で平年より弱く、中国北部から太平洋西部で平年より強かった。熱帯の対流活動は、インド洋の広い範囲で非常に活発だったほか、南米北部から西部赤道大西洋・海洋大陸でも活発であった。季節内変動は、5月下旬頃にインド洋で対流活動が活発化した後、6月中旬には太平洋西部で、6月末には大西洋西部付近へと順調に東進した。

### 世界の異常天候

#### ①中央アジアの少雨

#### ②中国北東部から朝鮮半島の多雨

少雨傾向が続いていたモンゴルや中国北東部では、50 mm 前後の降水があった。また、モンゴル東部から朝鮮半島にかけて多雨となり、韓国のカンヌンで月降水量 279 mm (241%)。

#### ③中国南部からマレーシアの高温少雨

#### ④インド南部の多雨

インド南部で多雨となり、ベンガル湾沿いのビジャカパトナムで月降水量 317 mm (310%)。

#### ⑤ヨーロッパ南部から中東北部の高温少雨

ヨーロッパ南部から中東北部にかけて高温・少雨となり、月平均気温が平年より 2°C 以上高くなったところがあった。

#### ⑥アフリカ北部の多雨

#### ⑦シベリア東部からアラスカの高温

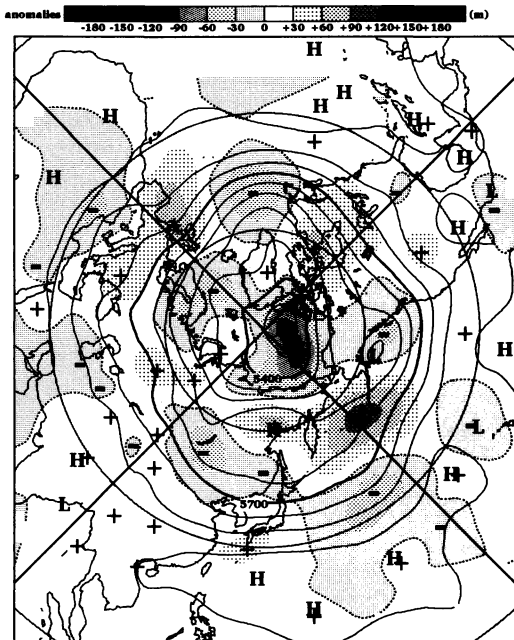
#### ⑧アメリカ合衆国南部からメキシコの少雨

アメリカ合衆国南部やメキシコ、アラスカ州で少雨となり、月降水量が数 mm 以下のところもあった。アラスカ州では林野火災、少雨傾向が継続している合衆国南西部からメキシコにかけての干ばつはここ100年で最悪と報じられた。

#### ⑨オーストラリアの高温

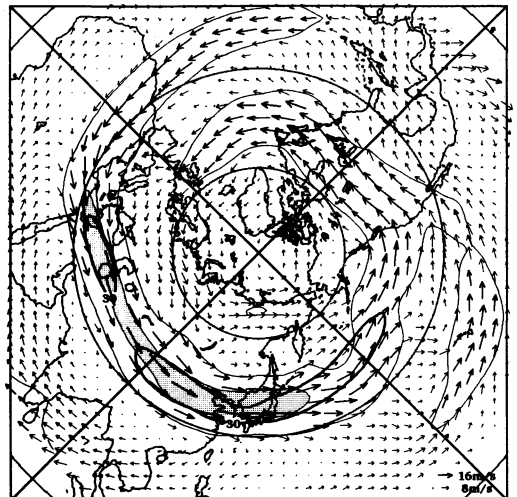
ほぼ全域で月平均気温が平年より高く、異常高温となったところも多かった。オーストラリア北西部のホールズクリークで月平均気温 24.2°C (+4.0°C)。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 石原 幸司)



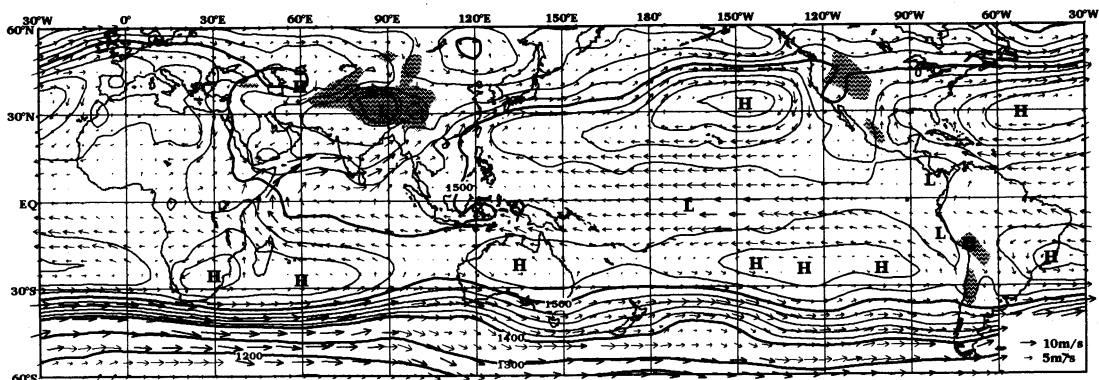
1996年6月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔, 偏差パターン間隔は 60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

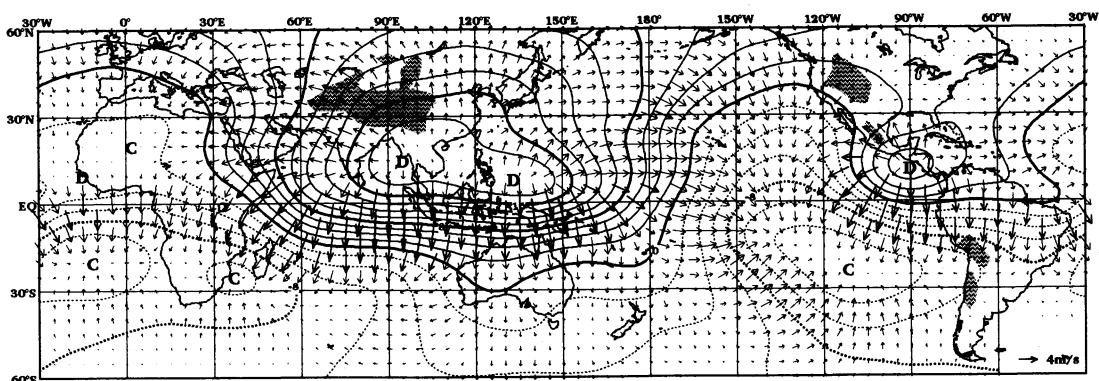


1996年6月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

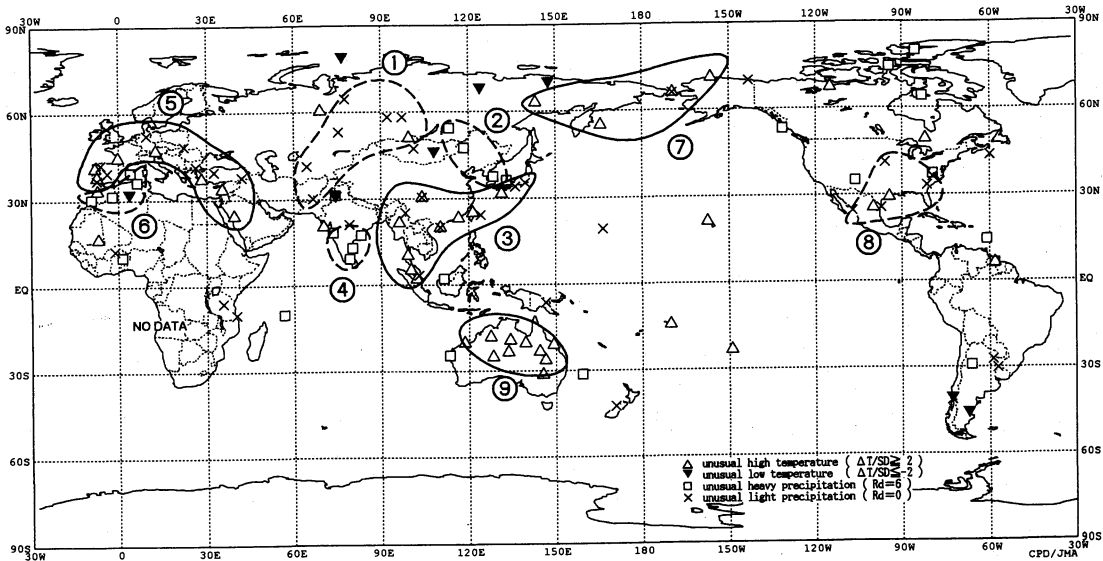
等値線間隔は 20 m/s. 陰影部は平年で 40 m/s 以上. 平年値は1979~1990年のデータに基づくもの。



1996年6月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1996年6月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1996年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6または0.  
 図中の番号は本文中の番号と対応している.